

# 令和6年度スーパーサイエンスハイスクール事業 理数セミナーのお知らせ

## がん治療の進歩

—関わった経験と若い方々へのメッセージ—

日時 | 令和6年12月7日(土)

午後2時から午後4時まで

会場 | 本校1階多目的ホール (予定)

対象 | 高校生・中学生

講師 | ご所属・役職 日本医科大学  
学長 弦間 昭彦 先生



### 講演概要

現在、日本人の2人に1人はがんに罹患し、4人に1人は、がんで亡くなります。そのがんの中で、死亡原因の1位であるのは肺癌です。私は、医学生時代、柳田邦男「がん回廊の明日」に触れ、人類最大の懸案と言えるがん治療研究をする志を持ち、がん研究に携わりながら現在に至りました。その過程で、仲間や時代、そして運に恵まれながら、その急速な進歩の流れの中で、多くのことを経験しました。

まず、肺癌診療は、診療技術の進歩が最も目覚ましい領域の一つであります。その具体的な進歩としては、画像診断、内視鏡診断、侵襲の少ない手術、分子標的治療薬の開発、標的治療分野での分子診断技術、放射線治療技術などの進歩、免疫チェックポイント阻害薬の開発などが挙げられます。特に、進行肺癌における分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬など、薬物療法の進歩による予後の改善は目を見張るものがあります。これらの進歩に関する我が国研究者の貢献は、極めて大きなものがあり、今回、一人の研究者としての研究経験を若い方々に紹介することで、皆さんが将来を考える上での参考になれば、幸いと思います。また、学長として創造に取り組んでいる新しい時代の医学部教育について、最後に触れたいと思います。

### 講師紹介

1956年山梨県甲府市に生まれる。中学2年の時に杉並区立神明中学に転校、その後、都立富士高校入学。ハンドボールなどの部活動。日本医科大学、大学院医学研究科を経て、医学博士号取得。国立がんセンター研究所、米国National Institute of Healthへ留学。Dr. Curtis C. Harris先生が運営するLaboratory of Human Carcinogenesisで2.5年間、先端研究に従事。帰国後、日本医科大学で講師、助教授、教授、医学部長、学長。学会活動としては、日本癌治療学会、日本呼吸器学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会などの会長を務める。



お問い合わせ：探究・SSH部 TEL 03-3382-0601